

平成30年度 安全計画

平成30年度 目標

「お客さま、社員、協力会社社員の死傷事故0」
「運転事故、インシデント0」

○定量的な目標

項 目	目 標
お客さま、社員、協力会社社員の死亡事故	0
お客さま、社員、協力会社社員の傷害事故	

区 分	項 目	目 標
運 転 事 故	列車事故(衝突・脱線等)	0
	人身障害事故	
	踏切障害事故	
	鉄道物損事故	
	インシデント	

○安全方針及び安全に係る行動規範

安全方針

1. 私たちは、安全は事業の根幹であるとの信念のもと、お客さまの安全を最優先します。
2. 私たちは、安全に関する法令及び規程を遵守し、全社員一丸となって安全の確保に取り組みます。
3. 私たちは、P D C Aを確実に実施し、継続的な改善見直しを行ない、常に安全性の向上に努めます。
4. 私たちは、安全で安定した輸送を変わらぬ使命とし、お客さまに信頼され、地域に愛されるしなの鉄道を目指して挑戦します。

安全に係る行動規範

1. 一致協力して輸送の安全の確保に努める
2. 輸送の安全に関する法令及び関連する規程をよく理解するとともにこれを遵守し、厳正、忠実に職務を遂行する
3. 常に輸送の安全に関する状況を把握し、理解するよう努める
4. 職務の遂行に当たり、推測に頼らず確認の励行に努め、疑義のある時は最も安全と思われる取扱いを行う
5. 事故・災害等が発生した時は、人命救助を最優先に行動し、速やかに安全適切な処置をとる
6. 情報は漏れなく、迅速、正確に伝達し、透明性を確保する
7. 常に問題意識を持ち、改革に果敢に挑戦する

1.安全マネジメント体制の充実・強化を図る

全社員が安全方針の意味を学び、安全のために「自ら考え、自ら行動する風土」を継続して創りあげていきます。

経営トップから現場責任者(※1)は「三現主義」に徹し、社員、協力会社社員と一体となって、安全のPDCA(継続的な改善見直し)を確実に実施して安全のレベルを向上させます。

《具体的取り組み》

- (1) 全社員説明会、現場巡回、各種訓練等で、安全方針の意味（安全最優先の原則・規程の順守・継続的改善）を具体的に伝え社員が学ぶ環境を創ります。
- (2) 役員による現場安全総点検および各安全管理者(※2)による現場巡回を実施します。
- (3) マネジメントレビュー、安全内部監査で安全マネジメントが有効に機能しているかを確認します。
- (4) 安全推進委員会で、安全重点施策の策定、進捗状況の把握と改善を実施します。
- (5) 現場長に対して「運輸安全マネジメント制度」についての教育を継続します。
- (6) 協力会社も参加した安全大会を開催します。
- (7) 好事例の表彰および社内への水平展開を図ります。

※1 経営トップから現場責任者とは、社長、役員、各安全管理者、駅長等の各機関の長を言います。

※2 各安全管理者とは、弊社安全管理規程に定められた、安全統括管理者、運転管理者、乗務員指導管理者、施設管理者、車両管理者、経営管理者を言います。

2. 安全を理解し、安全に対する感性を磨く

安全は、「お客さま・社員の命を守ること」安定は、「列車を正確に運行すること」鉄道には共に重要なことです。しかし物を動かすそのものに安全を脅かすリスクがあることを理解せず、安全と安定を同一視してしまうと、人命が脅かされることになりかねません。安全確保のために、「危ないと感じたら列車を止める」をすべての社員に徹底します。

さまざまな事故から命の尊さ、悲惨さ、恐ろしさを学び、安全の重要性を理解し、安全の確保のための具体的行動につなげ、安全に対する感性を磨いていきます。事故を未然に防ぐための危険を予知する「気づく力」、そして予知した危険を取り除くための「考える力」を醸成していきます。

《具体的取り組み》

- (1) 列車を止める手段、止めるべき状況等の教育を過去の事象等を活用し実施します。
- (2) 安全推進委員会、安全大会、訓練会、勉強会等で、過去の事故(坂城事故)、他山の石等の資料やビデオ教材を活用し、「安全と安定の違い」「命の尊さ、事故の悲惨さ、恐ろしさ」を浸透させます。
- (3) 「現地を見る、体験する、イメージして考える」の取り組みを実施すると共に、自職場の訓練や取り組みだけでなく、他職場の取り組みや訓練を見学・体験することにより、危険予知能力を磨き未然事故防止に努めます。

- (4) 身近にあるヒヤリ・ハットから、事故発生の可能性と、事故が発生した場合の重大性を各社員が考えられる風土を創ります。またその情報を水平展開し、未然事故防止に取り組みます。
- (5) 自箇所には潜む危険を洗い出し、ひとつひとつ危険を取り除いていきます。
- (6) 安全の取り組みを更に深度化するための人材を育成します。

3. 社内原因による事故等の撲滅と外的要因によるリスクを低減させる

当社および協力会社の原因(社内原因)による事故等や、繰り返し発生している事故等は、徹底的に原因を究明し、対策を確実に実行します。そしてその対策が有効であったかどうかの振り返りを新たに始めるとともに、設備、教育・訓練、ルールの見直し等あらゆる手段を講じて事故等の撲滅に取り組みます。またちょっとした気の緩み、慢心によるルール違反等が重大事故につながりかねないため、「ルールの成り立ち」を学び「ルールを守る」ことの重要性の理解と確実な実行を徹底します。

局地的豪雨、大雪等の自然災害等(外的要因)発生後の被害を最小限にするため、倒木、落石、落雪、土砂崩壊等の危険個所の把握と必要な対策を実施します。また気象情報により、早期に災害に備えた警戒態勢をとるとともに、事象発生後には振り返りを行い、リスクを低減させます。

《具体的取り組み》

- (1) 助役・係長などに、ヒューマンエラーの原因究明のための調査や分析法の教育を実施します。
- (2) 安全推進委員会で、出席者全員で議論し徹底的な原因究明と再発防止策及び未然防止策を策定するとともに、一定時間経過後の事故当事者のフォローの状況及び対策の有効性を確認します。
- (3) 役員、各安全管理者、現場管理者が作業実態とルールの乖離を確認し、乖離があった場合は、その乖離を見直します。
- (4) 鉄道の先人が苦勞して創った、ルールや作業手順の「成り立ち、本質（なぜ、そうになっているのか、なぜ、行うのか）」を学ぶ教育を実施します。
- (5) 「安全ABC※キャンペーン」を実施し、ルールの厳守を徹底します。
- (6) 机上による教育・訓練だけでなく、社員自らが考えた列車、駅に設置されている補助制御盤、転てつ器などを使った実践的な訓練を実施します。引き続きJR東日本様のご協力をいただきJR長野総合訓練センターでの運転シミュレータを使用しての乗務員訓練なども実施します。
- (7) 現場社員からの現場状況報告、気象情報会社等からの自然災害情報等の積極的な収集と正確な状況把握を行い、関係箇所と連携及び情報共有を行い、迅速かつ適切に対応し、外的要因によるリスクを低減します。
- (8) 設備等の計画的な点検・整備・処置を行います。
- (9) 県、市町村、警察、消防、JR東日本様等と連携した総合防災訓練、脱線復旧訓練等を通じて異常時対応能力を養います。
- (10) 踏切等における事故を防止するために、市町村等の協力を得た啓発活動を行います。

※安全のABCとは、A=当たり前のことを、B=ばかにしないで、C=ちゃんとやる。の意味。

4. 計画的な施設・設備の維持更新を行う

経年による設備の劣化、老朽化に対処するため検査修繕を計画的かつ確実に継続実施していきます。また、将来の老朽化に備え、中長期的な設備整備計画の策定を行い、実効性の高い設備の維持、更新体制を構築し計画の推進を図ります。

《安全設備整備計画》

ア. 設備投資

(単位：百万円)

総 額	内 訳	
	線路・電気	車両
668	649	19

主な件名

《線路・電気》

- ・ホーム扛上（古間駅、黒姫駅）《106》
- ・各種通信回線搬送装置の更新 《50》
- ・木製マクラギのコンクリートマクラギ化 《43》
- ・エレベーター、ホーム扛上の詳細設計（北長野駅）《38》
- ・電車線支持物の建替工事 《37》

《車両》

- ・車両故障に備えた予備品の購入《19》

イ. 検査修繕

(単位：百万円)

総 額	内 訳	
	線路・電気	車両
1,011	639	372

- ・線 路・・・線路および土木構造物（橋梁等）の検査修繕
- ・電 気・・・電力および信号通信設備の検査修繕
- ・車 両・・・各種検査（全般検査、重要部検査等）修繕